



公衆衛生対策

国 試 出 題 数 1 位 は 公 衆 衛 生

⑤ 最も多く出題される分野、公衆衛生 ⑤

国試において最も出題される科目は何でしょう？それは**公衆衛生**です。循環器や神経など、いかにも多く出題されそうなメジャー科目群を抑えて毎年、不動の1位。年によって多少の変動はありますが、循環器や神経が毎年30問くらい出題されているのに対し、公衆衛生は60問前後と約2倍も出題されています。112回では57問出題され、国試400問のうち実に14.25%を占めました(次の項目を含め、小社基準によるカウント)。

国試で最も重要な科目は公衆衛生、といっても過言ではありません。

⑥ 一般問題だけでなく「必修」「臨床」も要注意 ⑥

公衆衛生は科目の性質上、一般問題での出題が多いのですが、必修問題・臨床問題でも出題されます。回によって多少ばらつきはありますが、公衆衛生の必修問題は出題数にして10～20問、点数にして15～30点となっており、必修の点数の10～20%を占めています。112回では、20問が出題され合計30点、必修の点数の15%を占めました。合格ラインが80%の必修問題においても、公衆衛生の重要性は変わりません。

また、必修問題の中でも特に「**必修の臨床問題**」には注意が必要です。112回から、必修問題ではない臨床問題は一般問題と同様に1問1点で採点されるようになりましたが、必修の臨床問題は111回までと同様に1問3点で採点、つまり1問で必修の点数の1.5%を占めます。他科目と比べると多くはないですが、「毎年出題されている」ことは覚えておきましょう。

なお、「公衆衛生の臨床問題」というイメージがわからないかもしれませんが、「高齢者の症例において適切な介護保険のサービスを選ぶ」「労働者に対する産業医の適切な対応を選ぶ」などといった問題が出題されています。



🎯 メディックメディアの書籍で公衆衛生に強くなる 🎯

QB公衆衛生



公衆衛生の重要性がはっきりしたところで、実際の対策法を見ていきましょう。公衆衛生は基本的に定番問題が多いため、**過去問演習**をしっかり行えば十分に合格点をとることができます。まずは8割を超える受験生が使っている*問題集『QB 公衆衛生』を解くことが、合格レベル確保への近道です。遅くとも年内に1周しておきましょう。公衆衛生で何が問われるかが把握でき、全体像が見えてきます。そのうえで本番までに2～3周すれば、十分に合格点をとることができるはずです。

* 112回医師国家試験採点サービスアンケートより

RB公衆衛生



メディックメディアでは、合格をより確実にするために、『QB 公衆衛生』と『レビューブック公衆衛生』をあわせて使うことを推奨しています。『レビューブック公衆衛生』は、国試合格レベルの知識が短文形式でコンパクトにまとめられているため、知識の整理に最適です。実際に国試で問われた部分を下線+国試番号で示しているので、重要ポイントが一目でわかるようになっています。

また、理解するのが難しい用語や概念、法制度については『Lecture』というページを設け、講義調のやさしい文章で解説。公衆衛生が苦手な人でも読みやすいようにしています。

🎯 平成 30 年版出題基準の新ワードを押さえる 🎯

112回より適用された「平成 30 年版医師国家試験出題基準」において、公衆衛生範囲でも新しい項目が多数追加されました。「出題基準に新たに追加された項目」と「過去問ではまだ出題のない、または少ない項目」について、『QB 公衆衛生』では**予想問題**を計 40 問収録。『レビューブック公衆衛生』でも、同様の項目についてフォローしています。以下、平成 30 年版出題基準に新たに追加された項目や過去問ではまだ出題のない項目をいくつか挙げておきますので、『QB 公衆衛生』『レビューブック公衆衛生』でチェックしてみてください。

- システマティックレビュー ● レスパイトケア ● 医療事故調査制度 ● 地域医療構想
- 難病の患者に対する医療等に関する法律（難病法） ● がん対策基本法 ● 障害者基本計画
- 持続可能な開発のための 2030 アジェンダ(SDGs) ● ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)

赤字は
新規
追加項目

まとめ

公衆衛生はこう対策する！



① なにはともあれ、まずは『QB 公衆衛生』を解く！

～問題演習で、公衆衛生で何が問われるか、公衆衛生の全体像を把握する。

② 『レビューブック 公衆衛生』で、重要事項をチェック！

～「Lecture」を活用し、公衆衛生のエッセンスを理解する。

③ 『QB 公衆衛生』の予想問題で過去問の穴を埋める！

～『レビューブック公衆衛生』とあわせて新ワードに対応する。